

## 南阿蘇村の断層調査現場の見学会を開催しました

2018年1月4日

阿蘇ジオパーク推進協議会

2017年12月23日（土）に、阿蘇ユネスコ世界ジオパーク内の南阿蘇村で、断層調査現場の見学会を行いました。昨年2016年の熊本地震以降、南阿蘇村では、複数の研究機関による断層の調査が行なわれており、これまで知られていなかったカルデラ内での活断層の存在が明らかになってきています。

この調査は、今回の地震で大きく動いたとされる布田川断層帯の延長上の地表に断層帯が観察されたことにより、別府一島原地溝帯に沿う形で、カルデラ内を走る断層帯がある事が予想され調査に至ったものです。これまでも地形などから布田川断層の延長がカルデラ内にも延びているという推測はされていましたが、火山からの比較的新しい噴出物に覆われていることから、はっきりとしたことは解っていませんでした。今回の一連の調査により新しい事実が証明されようとしています。



写真1. 1箇所目の熊大トレンチにて、熊本大学の鳥井真之特任准教授の説明を受ける参加者

今回は、阿蘇ジオパークの活動に継続的にご協力いただいている熊本大学の鳥井真之特任准教授のご厚意で、電力中央研究所や産業技術総合研究所にお声掛けいただき、南阿蘇村内に掘られている断層調査現場 4 カ所を巡り、それぞれの現場にて専門家よりご説明いただける見学会が実現しました。鳥井先生には、ガイド養成講座の講師をお勤めいただいたり、博物館に現在展示している地層断面（12/22（金）より、阿蘇火山博物館 2～3 階ホール壁面にて公開中）の矧ぎ取り作業を指揮していただくなど、多方面でご協力いただいています。

阿蘇ジオパークで活躍するジオガイドの方々、そして、今年度開かれたガイド養成講座に参加され無事に修了されたの方々、事務局を合せて約 30 名、各調査現場の関係者の方々などを合せると 40 名を超える方々にご参加いただきました。断層調査現場を 4 カ所廻り、それぞれの現場において専門家よりご説明をいただき、今回の熊本地震を含め、少なくとも 5 回以上のずれによって生じている断層面を間近で観察しました。この断層面は、カルデラ内においてもある程度の周期（数千年単位）をもって、今回の熊本地震と同様の規模の地震が繰り返されて来た可能性があることを示しており、今後の地震に対する防災・減災を考える上でも、重要な情報が得られています。



写真 2. 2 箇所目の黒川トレンチ（長陽西部小学校付近）で、電力中央研究所の方より説明を受ける参加者



参加者は、普段入ることのできない調査現場に足を踏み入れ、専門家からの説明を受ける事で、ただ見ただけではよくわからない断層に刻み込まれた過去の地震活動を目の当たりにし、沢山の学びを得る事が出来ました。現在活躍するジオガイドの皆さん、そして今後ご活躍いただく養成講座修了生の方々には、ご自身の被災経験に併せ、今回の学びを今後のガイド活動に活かしていただき、熊本・阿蘇を訪れる方々に自然の雄大さを感じていただくと共に、防災・減災への意識を高めていただけることを願っています。

被災をしたからこそ伝えられる、そして、今後の災害に生きる知恵があり、そのことを日本また世界に向けて発信していくことをジオパークの使命の一つとして感じています。

今後は、この調査断面についても、矧ぎ取り作業などを行う予定にしており、阿蘇ジオパーク推進協議会事務局及びガイド協会でもその作業にご協力させていただき、連携しながら双方の学びの場を創造していく予定としています。



写真3. 3箇所目のトンボの里トレンチで、電力中央研究所の方より説明を受ける参加者



写真4. 4箇所目の産総研トレンチで説明を受ける参加者

#### 南阿蘇村 断層調査現場見学会

- 日時：平成29年12月23日（土）12:30 ～ 16:00
- 場所：南阿蘇村河陽地区における4カ所

主催：阿蘇ジオパーク推進協議会

協力：熊本大学水循環減災センター、一般社団法人 電力中央研究所、国立研究開発法人 産業技術総合研究所、株式会社 中央土木コンサルタント、株式会社 阪神コンサルタンツ